

目指す児童像 『自分で考え、よりよい判断ができる子ども』

光陰矢の如し

「時が経つのは早い」という意味で使われる表題です。4月に入学した1年生がまもなく2年生です。顔つきもなんだか少しお兄さんお姉さんのような感じもします。

学級担任時、受け持った子の4月の顔写真と翌年の3月の顔写真を並べて掲示したことがあります。たった1年ですが、顔つきが随分と凛々しくなっていたのを覚えています。

日々の成長は、間近で見ているほど気づきにくいものかもしれません。しかし、1年前と比較すると、その軌跡が鮮明になるかと思えます。昨年の4月の時期と今とで身体的な成長のみならず、内面的な成長を見ることで、子どもたちの確かな成長が感じられると思えます。

ふとした言葉遣い、さりげない優しさ、目標に向かう粘り強さや我慢強さ、自分でやり遂げようとする姿勢など、子どもの内面が滲み出ている瞬間が見られる時期でもあると思えます。

集団心理

昭和の古いギャグに「赤信号、みんなで渡れば怖くない」というのがありました。当然、このようなことは絶対してはいけないのですが、集団心理をうまく表していると思えます。

だめなことでも複数人ですると罪悪感が薄れ、時に犯罪にまで及んでしまうことがニュース等でも目にすることがあります。

では、学校ではどうでしょうか。学校にも様々なルールがあります。「小栗小 25 のきまり」がその代表的なものですが、その他にも提出物の期限、宿題、自家用車送迎の際の乗降場所等々。

誰かがルールを守らないことを良しとして、自分も自分もとなると、先に述べた「赤信号、みんなで渡れば怖くない」の状態になるのではないかと思います。

定められたルールに不備があるのであれば整備は必要ですが、個々の都合に合わせることはできません。年度末を迎え、子どもたちの生活の様子にやや集団心理が見え隠れするのが気になるところです。

